

# 2025年度事業計画

## 1.事業計画の概要

本学の事業計画は、建学の精神、目的、理念に基づき、目標等の達成のために各部署の優先順位に基づき策定する。

2025年度は、第5次中長期計画の総括を行い、第6次中期計画策定に向け、各部署事業の継続や新規事業について十分に検討し計画する。検討にあたっては、経営戦略室で方針及び優先順位を決定する。

2025年度は、教育組織の改組の2年目となる。沖縄キリスト教学院大学人文学部においては、英語コミュニケーション学科は、英語力の向上と資格取得率の向上を目指し、観光文化学科は、沖縄県内における観光分野の人材育成を目指し、設置計画を着実に実行する。

沖縄キリスト教短期大学においては、地域こども保育学科は、その名称を定着させ、学生獲得のため、高校現場への講師派遣等積極的に取り組む。英語科は2025年度中には廃科の手続きを完了する。

2025年度は、新たな教育体制に沿った教育事業の構築、見直しを行う年とし、財政においては、健全化に向けた取り組みを確実に実行する。

尚、本学は、直近の認証評価（大学：2024年度受審、短期大学：2023年度受審）において「適合」の評価を得ており、改善を要するとして指摘された事項はない。

## 2.教育・研究活動

### 中長期目標Ⅰ．教育の充実と学生の満足度向上

#### (1) 教育プログラム改善による教育の質の保証

- ① 教学マネジメントの確立とそれに基づくPDCAサイクルの実施
- ② カリキュラム編成の見直し、改善

教学マネジメント委員会を中心に、学科及び担当部署と連携してアセスメント実施スケジュールに基づく学修（学習）成果の点検・評価を実施し、カリキュラム編成の見直しや教育活動の改善に向けて取り組む。

#### 【英語コミュニケーション学科】

- ・ 英語専門科目の教育成果向上を目的に、非常勤講師・専任教員合同の研修会を各学期前に設け、指導方針の共通理解を図り、学期中も情報共有を密にし、連携の強化に努める。
- ・ 学科必修科目（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミナール、卒業基礎研究、卒業研究）の成果と課題について検証を行い、改善に向けた方策を検討する。

#### 【観光文化学科】

- ・ 学科開設2年目となるので、設置届出書の内容に従って1・2年次のカリキュラムを実施する。学生とのコミュニケーションや学科教員間の情報共有を図りながら学生の教育環境の向上を図る。

#### 【地域こども保育学科】

- ・ 定例科会後の学科FD研修、夏・春の学科FD研修、さらに非常勤講師を含めたFD研修会を各学期に1回（年2回）行い、学生の実態の共有、教育方法の改善を行う。
- ・ ①と各種アセスメントの結果を踏まえ、学生の学習意欲の向上、満足度向上を目指し、カリキュラム編成の見直し、改善を図る。
- ③ 修学ポートフォリオを活用した学生の学修（学習）成果の向上
  - ・ 修学ポートフォリオを用いて把握した学修（学習）成果について、教育活動の見直しに活用する。また、学修（学習）成果向上に資する、学生の主体的な学びの実現について、支援及び指導体制を強化する。
- ④ 「英語教育センター」設立による英語教育の充実
  - ・ 英検の面接試験（二次試験）に関しては、CEEは、一次試験合格者の合格率が非常に高いことから、一次試験合格者を対象とした試験日前の集中練習（「英検ブリッツ」）を引き

続き実施する。

- ・英検一次試験の合格者数を増やすため、2025年度からは英検一次試験の準備と練習を、特に2~4級クラスのリーディングと文法のコアカリキュラムに明確に組み込む。英検対策は授業全体の33%を超えないようにする。

⑤学習支援センターの強化

- ・学習支援センター機能を凍結し、各学科が主体となり学習指導を実施する。

【地域こども保育学科】

- ・「サポートの必要な入学者」について、入試課及び学生課と連携して、学習支援や生活支援等を行う。

(2) キャリア教育と就職支援の充実

①就職・進学率（※）及び正規雇用率の向上

②キャリア教育プログラムの充実

③資格取得支援（準正課・正課外）の充実

- ・既存の求人情報サイトアプリに加え、新たなサイトを導入し、積極的な活用を促し、多くの情報を取り入れてもらうことで、自身の就業意識を高めるきっかけとしたい。
- ・求人情報アプリの活用により、多くの企業が募集するインターンシップ等へのエントリーが可能のため、夏季休暇前の3年生を中心に積極的な働きかけを行い、体験率を高める。
- ・英検・TOEIC講座については、イングリッシュセンター担当教員の他、学外の講師による対策講座も開講しスコアUPにつなげる。

【地域こども保育学科】

- ・キャリア支援課と連携して、保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設（保育所以外）の学内説明会を実施する。

(3) 学生支援の充実

①奨学金制度の見直しによる修学支援の充実

- ・2025年度より高等教育の修学支援新制度が多子世帯支援を拡充するため、申請漏れがないよう制度の周知を図る。国の給付型奨学金を受給できない中間層の学生へ学内奨学金の申し込みを促す。

②中退学率の減少

- ・高等教育の修学支援新制度を利用している学生が支援廃止とならないよう、欠席率の状況を毎月把握し、声掛けや学科等関係部署と情報共有を継続する。

【地域こども保育学科】

- ・教務課、学生課と連携し情報共有を行う。欠席率や学習状況に応じ面談指導を行う。

③学生生活支援の充実

④課外活動による学生生活の充実

- ・サークル活性化や学内外イベント、ボランティアなど、学生時代に力を入れたこと（ガクチカ）を体験できるよう学生に促す。

(4) 海外研修プログラムの充実

①既存プログラムの見直し

②新規プログラムの構築

- ・在学留学特別奨学金を活用しての留学を促したり、留学相談の充実など、引き続き学生が海外に興味を持ち、留学や研修を体験できるよう広報・相談に力を入れる。2025年度初めて韓国韓信大学校より交換留学生を受け入れるため、交流を推進する。

(5) 安全、安心、快適なキャンパス整備事業計画

①大規模修繕計画に基づくキャンパス全体の教育環境の整備と緑化事業の推進

- ・大規模修繕工事を観光文化学科完成年度まで凍結するが、安心安全なキャンパスライフを送るうえで欠かせない修繕を計画し実施する。
- ・大規模修繕計画「保育科特別教室改修」について、2025年度は北2-3・北2-4教室の改修工事に取り組む。

②ICTを活用した教育システムの構築

- ・教室のPCのリプレースを実施する。
- ・学生生活オリエンテーションにおいて「ノートパソコンの購入とBYODについて（仮称）」、レクチャーする。また、「BYODに関するアンケート調査」を実施する。  
※BYOD：Bring Your Own Device（個人が私物として所有しているPCやスマートフォンを使う利用形態）

③キャンパス再開発計画

- ・西原町と連携し開始した渋滞緩和策おゆずりゾーンの効果の確認
- ・2024年度ラーニング commons の計画には着手できず、2025年度より図書館委員会で、用途・場所の設定・プラン・業者選定（プレゼン）までは進めておきたい。

(6) 観光文化学科の取り組み

①海外研修（異文化交流）の取り組み

- ・初回の国際文化交流海外研修の教育効果の最大化と安全の確保に万全を期す。研修修了後は課題の洗い出しを行い、次年度に向けて改善を図る。

(7) 大学院の取り組み

- ・2024年度に実施された大学認証評価での指摘を踏まえ、2025年度は2026年度へ向けて、教育プログラムや研究科の体制など、大学院の今後の方向性について法人レベルで議論し決定する。またその決定に従い、カリキュラムなど研究科レベルでの調整を行う。

## 中長期目標Ⅱ．沖縄社会とアジアと世界への貢献

(1) 沖縄地域社会への貢献

①SDGs 活動を通じた持続可能な沖縄社会実現への貢献

- ・西原町との包括連携協定に基づく地域連携事業として、地域の課題解決に資する本学プログラムを企画・提案する。

②沖縄の幼児教育への貢献

【地域こども保育学科】

- ・沖縄の保育・幼児教育に関する調査の実施や各種研修会において保育者への助言・指導などを行う。

③キリスト教を基礎とした社会貢献活動

- ・「隣人愛」への学びに関して、2024年度に引き続き既存科目にて実施する。また、社会貢献活動は年1回予定している。

④近隣自治体、企業団体等との連携

- ・西原町との包括連携協定に基づく地域連携事業として、地域の課題解決に資する本学プログラムを企画・提案する。

⑤近隣高校との連携

- ・西原高等学校との包括連携協定のもと、生徒及び学生の資質能力の向上に繋がる連携活動に積極的に取り組む。

(2) アジアと世界への貢献

①アジアの学びと交流、マイノリティーへの学びと理解、沖縄・自己の理解の深化

【英語コミュニケーション学科】

- ・海外研修（多文化共生、アジアボランティア）及び事前・事後の学びを通じて、アジア地域の現状、ハワイの歴史・文化・社会について体験的に理解を深めるとともに、比較の視点を持ちながら沖縄の言語・歴史・文化についての理解も深める。

②留学生の受け入れ計画

- ・2025年度に初めて協定校の韓信大学校より交換留学生を観光文化学科に受け入れる。次年度以降も継続する見込みであるため、本学学生との交流行事を企画し、受け入れ態勢の充実を図る。

(3) 観光文化学科の取り組み

①企業団体等との連携、取り組み

- ・沖縄県内外の企業、団体、行政機関等と連携しながら、学生のキャリア形成支援や、実践的な授業の展開を図る。
- ②大学間連携への取り組み
  - ・観光系学科を有する大学と、教員同士の意見交換を進める。また県内他大学との間で非常勤講師やゲストスピーカーの相互派遣を行う。
- ③地域連携への取り組み
  - ・自治体等と協力しながら、地域振興・観光振興につながる各種活動に参画する。

### 中長期目標Ⅲ. 財政状況の改善・強化

#### (1) 安定的な学生の確保

- ①志願者の増加
  - ・引き続き定期的なオープンキャンパスを実施。学外ガイダンスは機会の増加に伴い、これまでの実績を分析し再検討を行う。
- ②入学者の安定的確保と収容定員 1.0 倍の確保
  - ・高校生へ本学学生の近況を案内するため各高校別卒業生案内チラシを製作し配布する。
- ③入試制度の見直し
  - ・オンライン出願について導入の目途が立っていないため引き続き導入について検討する。
  - 【英語コミュニケーション学科】
    - ・受験生の多様なバックグラウンドを尊重し、評価における公平性の担保を念頭に、評価方法の妥当性を検討し、必要に応じて見直しを図る。
  - 【地域こども保育学科】
    - ・2026年度入学者選抜に向けて、入学者の学習に対応した受験科目についての見直しを必要に応じて検討する。
- ④戦略的な募集活動と募集活動の質の向上
  - ・新入生向けアンケートの実施を検討し、新入生がどのような経緯で本学入学まで至ったのかを確認。出願対象者のニーズに合わせた広報活動を実施していく。
  - 【英語コミュニケーション学科】
    - ・オープンキャンパスの内容を検討し企画・立案を行うワーキングチームを設け、学科の特色や魅力を最大限に発信できる体制づくりに取り組む
  - 【地域こども保育学科】
    - ・入試課及び企画推進課と連携、協力し、SNSを活用した学科広報を行う。また保育に関心のある社会人の開拓に努める。

#### (2) 広報戦略の強化

- ①大学広報体制の構築・強化
  - ・各学科の社会的認知度向上を目指し、ソーシャルメディアを活用した広報活動を強化し、スピードある情報発信に取り組む。

#### (3) 教育コンテンツを活用した収入増加への取り組み

- ①学外向け講座等の拡充
  - ・全国どこからでも受講可能なオンラインを活用した公開講座および特別公開講座の提供
  - ・高年齢層向け対面公開講座の提供

#### (4) 新学部・学科設置、改組

- ①建学の精神と本学の特色を活かした学部学科設置の検討
  - ・入学定員、収容定員の充足、就学支援新制度、経常費補助金獲得のための取り組みを検討する。
  - ・新設置基準に沿った基幹教員の確保に取り組む。

#### (5) 組織改編、統廃合による業務の効率化・経費削減と経営・ガバナンス強化

- ①組織のスリム化
  - ・学習支援センター業務および沖縄キリスト教平和総合研究所について財政状況が改善され

るまで事業を凍結する。

②法人と教学の連携強化と監事機能の強化

- ・私学法改正に伴う寄付行為の改正において連携機能強化を図り、会計士及び役員との意見交換を行った上、監事監査計画に基づいた監査を実施し、理事会・評議員会に報告する。
- ・会計監査人及び役員との意見交換を行った上、監事監査計画に基づいた監査を実施し、監査報告書を理事会・評議員会に提出する。

③体系的SDによる人材育成と人員計画

- ・事務職員の人事考課制度導入の検討開始。

④積極的な情報公開

- ・学修成果や教育成果について、各種調査の結果及びIR分析を活用し公表していく。

(6) 財政計画・財政基盤強化

①財政健全化計画と資産積み立て計画の策定

- ・大学及び英語コミュニケーション学科、観光文化学科、地域こども保育学科認知度向上のための広報関連予算を確保する。
- ・大規模修繕計画「保育科特別教室改修」(北2-3・北2-4教室)等に係る経費は、70,000千円を特定資産より取り崩して充当し、退職給与引当特定資産は20,000千円を積み増しする。
- ・2025年度入学者は、英コミ90、観光70、保育学科60の予定である。

②外部資金獲得への取り組み

- ・目標寄付金額の見直しを検討する。
- ・外部資金獲得に向け積極的に取り組む。

③人件費の安定化と働き方改革への対応

- ・働き方改革に関する情報収集に努め、2027年度までに規程制定を目指す。

(7) 観光文化学科の取り組み

①学生募集の取り組み

- ・高校訪問、オープンキャンパス、模擬授業の実施により学科の認知度向上に努める。
- また、学内外のメディアにニュースとして取り上げてもらえるような諸活動を積極的に行う。